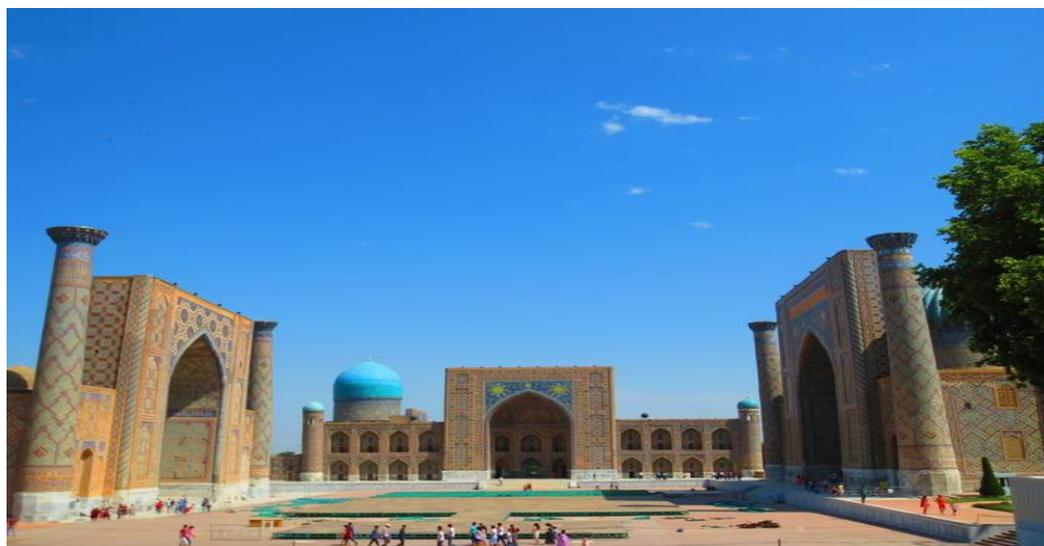
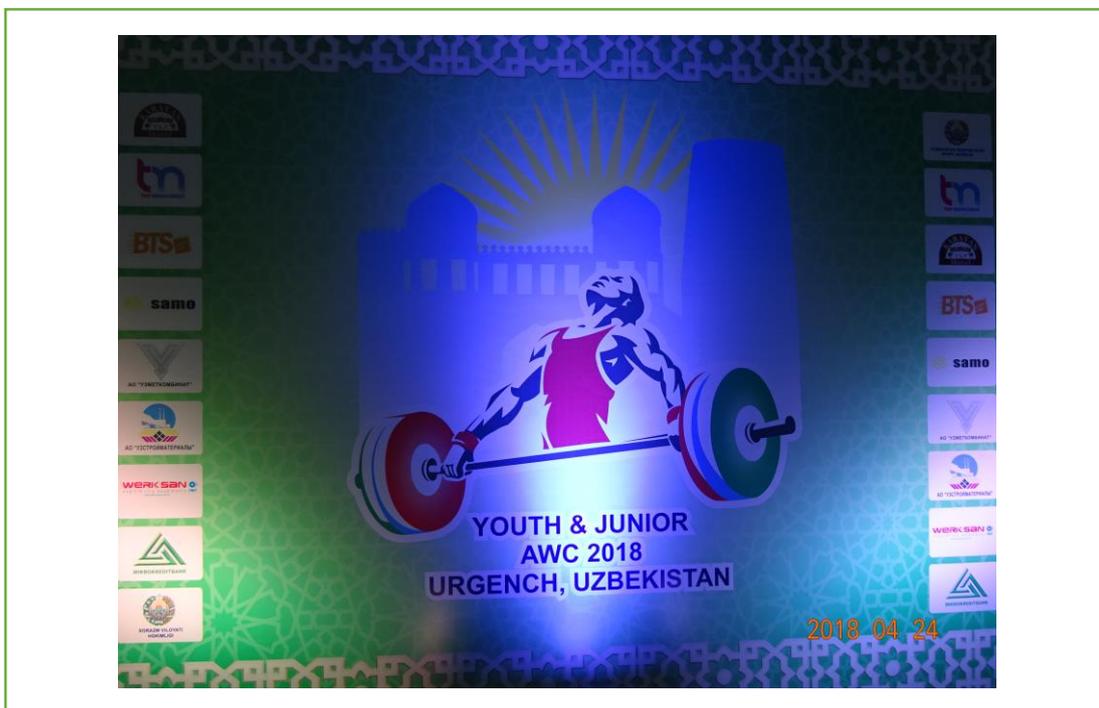


2018 アジアユース ウェイトリフティング選手権大会

ウズベキスタン共和国・ウルゲンチ市
O'zbekiston Urganch

2018, 4, 18 ~ 5, 1



1. 遠征日程

※日本とウズベキスタンとの時差は4時間です。

期 日	スケジュール	備 考
4/15 日	味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC) 選手団集合 15:00 遠征概要オリエンテーション	
16 月	事前調整合宿	
17 火	事前調整合宿	
18 水	NTC 出発 9:20-11:00 成田空港へ (出国)成田 13:20 → 仁川 15:50/17:10 → UZB(タシケント)00:35 (市内ホテルで宿泊)	日本時間
19 木	宿 5:00 出発 タシケント 7:15 → ウルゲンチ 8:55 宿舎着 10:00	現地時間 約 32 時間の旅程
20 金	調整練習	
21 土	試合前 諸会議(ファイナルエントリー)	エントリー日程決定
22 日	調整練習、AWF 総会	
23 月	試合① オープニングセレモニー w44 ウエルカムパーティ	w:女子 M:男子
24 火	試合② w48 M56(大西裕也 試合)	
25 水	試合③ w53 M62	
26 木	試合④ w58 M69	
27 土	試合⑤ w63 M77	
28 日	試合⑤ w69 M85	
29 月	試合⑥ 最終日 w75~ M94~	
30 火	観光 ヒヴァ(世界遺産)、フェアウェイパーティ(表彰式)	
5/1 日	ウルゲンチ 9:35 → タシケント 11:05/(出国)21:20 →	現地時間 タシケント観光
2 月	→ 仁川 7:45/10:10 → 成田 12:30(帰国) 13:30(解団・解散) 東京 16:00 → 新大阪 18:30 帰着	日本時間



4月18日 旅立ちの朝

NTC (味の素ナショナルトレーニングセンター) を出発する
日本選手団

大西は前列左端

2. ウズベキスタン共和国とは――

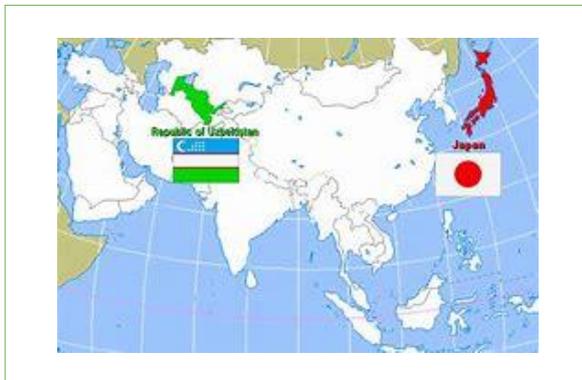
ウズベキスタン共和国は、旧ソビエト連邦の構成国で、中央アジア・西側に位置する国である。

周囲をカザフスタン、アフガニスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、キルギスなど五つの国に囲まれている。国土の多くは広大な砂漠(キジルクム砂漠)と険しい山々で占められる。基幹産業はあまりなく、10%にも満たない灌漑農業用地や河川流域のオアシスに似た土地で集中的に農業が行われている。

かつてここは、シルクロードの中継地として栄えた大帝国であり、世界遺産であるイスラム建築物が数多く残る、青く輝く美しい国である。

日本(成田)からは、週1便首都のタシュケントまで直行便があり、地図上の直線距離は、約1万kmフライト時間は約10時間である。(ウズベキスタン航空)

しかし今回我々は韓国(仁川)経由 タシュケントへ。そこから国内線にトランジットして、試合会場である「ウルゲンチ」に入った。ここは日本との時差は4時間で、NTCを出発して、宿舎到着までの所要時間は、30時間余りとたいへん厳しい旅程であった。



〇〇スタンと聞くと、テロなどちょっと危険なイメージであるが、このウズベキスタンに限っては、この地域では唯一治安のいいところで、滞在中一度も危険なことを感じることは無かった。なおかつ人々が親日であることにびっくりさせられることが多かった。我々が日本人と知ると、「ヤポン ヤポン」といってニコニコと寄ってきて、握手してくれ、中には写真を撮られることもあった。

これは、昔この地で日本人が大きな功績を果たしたことが原因らしい。

首都タシュケントには、「ナヴォイ劇場」というオペラや音楽コンサートなどが開かれる国立劇場があり、中央アジアでは最も美しい有名な劇場とされている。

この劇場は実は、第二次世界大戦終戦後にシベリヤに抑留(捕虜)された日本人(約500人)がこの建設に携わり、過酷な労働条件の下、十分な建築機器のない中、ほぼ手作業でこの建物をわずか約2年間で完成させた。日本人の中には建築の専門家も含まれており、当時のイスラムの文化を取り入れた見事な建造物を完成させた。



「ナヴォイ劇場」

煉瓦作り3階建てのビザンチン風建築のオペラハウス。
一級の劇場”ボリショイ”劇場として、1947年10月に完成した。

その劇場の素晴らしさと日本人の真面目な働きぶりとその高い技術力は、ウズベキスタンの国民に感銘を与え、捕虜であった日本人は国民に親しく受け入れられ、その後日本人は捕虜から技術者として、待遇も手厚くされたということです。

抑留中亡くなった日本人はタシュケントの日本人墓地で大切に埋葬されている。

その後 1966 年にタシュケントで起きた大地震の際にはこのタシュケントの街は壊滅したが、この劇場だけが無傷で残り、タシュケントの被災者の病院・避難所となり、そのことが神話的な話として語り継がれており、現在においても親日家が多く、アニメや漫画をきっかけに日本に興味を持つ若者も多く、日本語を学ぶ方も増えているということだった。



手作業で作られたナヴォイ劇場



ウズベキスタの国旗

夜遅くにタシュケント国際空港に着いた「日本選手団」は、翌日早朝の飛行機に乗るため、空港近くの市内のホテルで仮眠することとなった。

私はホテルには直行せずに、通訳もないまま現地の世話役の人に連れられて、現地大会事務局に向かった。内容は日本選手団の2週間の滞在費(22,900米\$ 約240万円)の支払いであった。

初めての土地で、言葉もわからない国で「240万円」もの大金をもって、夜のタシュケントの街をうろろろするのはたいへん不安であった。何とか支払いを済ませて、ホテルで選手団と合流したのは、深夜であった。NTCを出発してホテル着まで、約18時間。緊張で疲れがわからなかった。



市内の三ツ星ホテル

部屋は二人部屋で広がったのですが、バスはぬるい濁ったお湯しか出なくて、まずはびっくりした。
仮眠で90\$支払ったホテルです。
物価は1/3くらいです。高すぎます！



早朝の飛行機で、タシュケント空港から、ウルゲンチへ向かう飛行機に搭乗する。

2018アジアユースウエイトリフティング選手権大会 現地レポート①

4月15日(日) 尼崎を出発して1週間が過ぎました。園家、大西二人とも元気です。
日本(NTC)で事前合宿を行い、4/18に成田空港を出発して、なんと30時間余りかかって、4/19
昼にようやくウズベキスタン・ウルゲンチに着きました。
さすがに長旅と時差(日本より4時間遅い)に疲れましたが、ようやく体調も戻ってこちらの生活に
慣れてきました。



到着したウルゲンチ空港 (遠かった!)

試合会場・ウルゲンチの近況報告です。

- ・気候は日本と似たようなもので、日中は20℃くらいで日差しは暑いですが、乾燥していてさらっとしています。しかし朝夕はすこし肌寒いです。朝夕寒暖の差がありますが、快適です。
 - ・ウズベキスタンは中央アジアに位置し、旧ソビエト連邦の西端、イスラム圏でシルクロードの世界遺産がたくさん残る国です。
人々はみんなやさしく温厚です。テロとか危険な地域のひとつと考えていましたが、ここの地域に限ってはとても安全な地域です。なにより親日で我々にたいへん親切です。
 - ・言葉はロシア語ときいていましたが、ウズベク語でロシア語とも違うようです。事前にロシア語で「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」「いただきます」など学習していきましたが、全く違ってました。現地では片言英語で対応しています。
- ☆裕也も頑張って尼工英語を駆使して、ちょっとかわいい店員さんのいるパン屋に通っているようです。
- ・食事はあまり種類がなく、朝昼夕毎食同じものです。宗教がら豚料理はありませんが、牛・鳥料理はあります。
魚料理はありません。野菜も種類は少ないですが、ややくせがあるものの美味しいです。全体的に意外と日本人の味にあうようで、それほど違和感はありません。
 - ・ウルゲンチは砂漠のなかに作られた新しい街で、広い土地に区画された建物、広い道路がはりめぐらされています。

散水装置がそこら中にあり、緑を育てています。街には電柱がないことと、道はひろく歩道もひろく、何より自転車がほとんど走っていません。ミニバイクや大型バイクなどの二輪車は1台も走っていません。普段尼崎であふれている自転車やバイクがないことが、街をすっきりさせています。ちょっとした新興都市のようです。高層のビルはありません。ほとんどが3~4階までです。



現地の通貨はスムです。30 \$ (3,200 円)を両替したら、24 万スムでした。ベッドに札束です。



ホテルのトイレです。テロを防止するためかトイレに仕切りがないところもありました。

・街には学校も多く小学生から生徒はみんな制服をきちっと着ています。イスラム圏なのに、ひげをはやした人はあまり多くなかったのが不思議です。

若い女性の服装は日本とあまり変わらないような人も多く見えます。顔や頭をそのまま出している人も多く、手足をふつうに出していることにびっくりしました。

若い人たちはみんなスタイルがよくスレンダーですが、Tシャツやジーンズなどカジュアルな格好をしている人はあまり見かけません。シャツやズボン、ジャケットをきて歩いています。色合いは白黒ベース・モノトーン系です。女性はカラフルな色と模様の素晴らしい服も着ている人もいますが、若い人は男子同様リクルートスタイルが多いです。

・建物は外から見るときれいで、色や模様は鮮やかでイスラム的な様相があります。しかし細部は窓がちゃんと閉まらなかったり、ゆがんでいたり、傷んでいます。遠くから見た美しさと実際は違います。日本の建築とはだいぶ違うようです。

・人々の足は車です。たくさん車が走っていますが、不思議に日本車は1台もみません。一番はシボレー、次にヒュンダイが多くを占めています。たぶん現地生産している車でしょうか、車種は多くありません。古い車もほとんど見ません。人々はバスも利用しますが、多くはタクシーを利用します。現地の人は少しの距離も歩かないようです。タクシーには料金メーターなどなく、すべて交渉です。日本のワンメーターが5000スム(70 円)です、車種はトヨタの初期のヴィッツに似た小型のタクシーがあふれています。(シボレースパーク)。バス停はなくどこでも手を上げたら止まってくれ、どこでも降りしてくれるようです。700スム(10 円)で市内均一料金です。

・一番の驚きは、通貨の違いです。こちらの通貨はスムです。1スム:0,013 円、1 円:75スム円前後です。両替でレート計算だけでなく実際に使った感じは、日本の 1/2~1/5くらいです。ものによればそれ以上の安い感覚です。

例えば最初コーラなど 1 本(120 円)買えば、4000スムと言われてびっくりしましたが、50円くらいです。エナジードリンク(300 円)なんかはちょっと高く15000スム(200円)くらい。しかし普通の食パン(150 円)は2100スム(30円)。しかし野菜や果物はやや高いです。特にバナナなど高級品で日本では 10 房着いたもので高くても500円程度のものが、60000スム(800円)、たぶん庶民の生活用品は非常に安い、品物がないものは日本以上のようです。

30ドル(3200円)両替したら、240,000スムで財布には入りきらない札束でした。

裕也も金持ちになったと喜んでいました。

2018アジアユースウエイトリフティング選手権大会結果（現地レポート）

ユース 56kg 級 大西 裕也の試合は、4月24日(火)13時(日本時間 17時)より行われました。

結果は **トータル 208kg(9位) スナッチ 93kg(10位) c&ジャーク 115kg(9位)**

トータル 208kg は試合自己記録を 7kg 上回る新記録でした。初の国際舞台ではなかなか自分の力を出し切ることが難しいのですが、彼はパーフェクトに近い試技で、自己記録を大幅に更新したことは大健闘です。



選手紹介です。



スナッチのアップが始まりました。



S スタート 87kg 軽く成功！



S 第2試技 90kg 安定した成功回目

当日は現地では珍しく小雨で気温も低めでした。しかし朝からハプニングがあり、ばたばたした中での試合開始でした。

それは、当日ウルゲンチにはウズベキスタンと隣国のトルクメニスタンの大統領が来られるということで、市内の幹線道路は全面的に封鎖・通行止めでした。我々には何の情報もないまま 10 時発のシャトルバスは 1 時間近くたっても来ません。11 時の検量を前に我々は焦りながらバスを待ちましたが、他国の選手監督は何一つ慌てることもありません。このあたりのお国事情の違いも感じました。なんとか遅れながらも検量にパスしましたが、バスの到着が遅れたこと、事前に情報を提示しなかったこと、それに関する対応を何一つしないことにはびっくりしました。

また急ぐバスが狭いところを走る時に、他の車にぶつかってもお互い何もないままでした。急いでいて肩がふれた程度です。ちなみにシャトルバスは毎日時間通り来たことはありません。時間的な感覚は日本人だけが別のような感じでした。

この大会は世界ユースオリンピックの出場枠をかけた大会で、大西も上位入賞はできませんでしたが、結果 9 位で国別得点を獲得して日本チームに貢献しました。



J スタート 110kg 確実に成功



J 第2試技 115kg 肘のプレスアウト(反則)失敗
第3試技は成功 T208kg(自己新)

56kg 級 大西 裕也の成績(結果)

スナッチ			C&ジャーク			ベスト		トータル	順位
1	2	3	1	2	3	S	C&J		
87	90	93	110	X 115	115	93	115	208	9位

《大西コメントです。》

「試合では落ち着いて力を出し切ることができました。しかし上位の選手とはまだまだ力の差がありますので、これからもっとしっかり練習して力をつけて、次回の試合に臨みたいです。応援ありがとうございました。」

この階級の優勝者(ベトナム)は、大西選手の挙げた J115 を、軽くスナッチで挙げていたように、トップとの力の差は歴然であったが、この遠征がきっかけで、彼の競技成績は飛躍的に向上することとなった。

大会は 30 日まで続きます。これから大西は他の日本選手の応援と空いた時間は、練習と勉強をさせます。尼工の皆さま応援まことにありがとうございました。

2018/04/24 ウズベキスタン ウルゲンチより 園家 恭一

ウズベキスタン紀行 スナップ



競技会場の壁画をバックに日本選手団



トレーニング場の玄関前にて



ウルゲンチの街中で一般の人と記念撮影



大西・園家 世界遺産 Hiva の壁画



イラン選手のコスチューム・ヒジャーブ姿（最近イスラムの女性選手が増えてきました。）



フェアウェイパーティ前に各国選手団が記念撮影



国別対抗で3位に入った日本女子チーム
世界ユース大会の出場権を獲得する！

☆ ウルゲンチでの食事



ホテルの朝食 パン、エッグ、ハム、野菜



試合会場でランチ (たくさんの種類です)



昼食と夕食は同じ会場で、メニューはほぼ毎日同じ。日本人には美味しかった。



食事会場は試合会場に隣接したレストランで、結婚式の披露宴(パーティ)をするような豪華な会場でした。最終日のバンケット(パーティ)もここで行われました。

☆ 観光 世界遺産 HIVA(ヒイヴァ)

試合が終わった翌日(ウズベキスタン滞在最終日)、日本選手団は地元の世話役の方の案内で、HIVA(ヒイヴァ) という世界遺産を見学に行きました。ホテルから 1 時間余りの場所で、シルクロード時代の遺跡観光であった。

(首都タシケントには、サマルカンドという同じような世界遺産があります)



モスクらしい建物の壁。その壁に向かって座ったままで、お祈りを教えてもらいました。



記念撮影用のラクダ 1.0\$



美しい遺跡をバックに大西裕也



建物の上からの風景





日本選手団 記念撮影



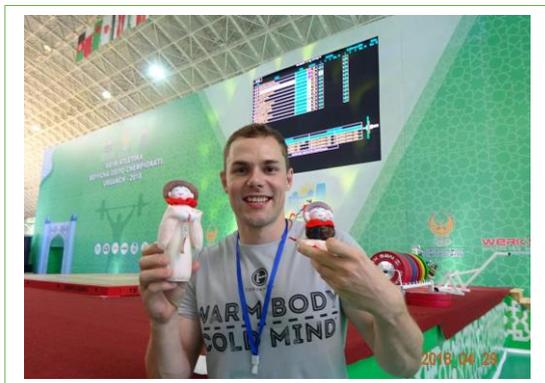
☆ 日本から持っていったお土産の人形(お地蔵さん、座り地蔵、雪ん子)



会場をバックに撮影



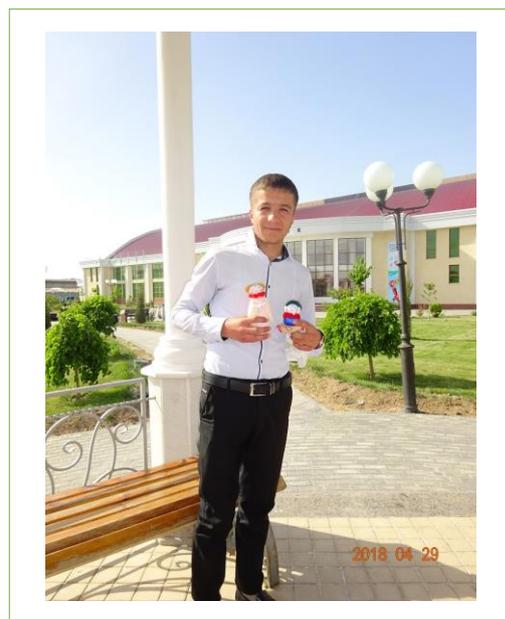
ボクシングのコーチにもプレゼント



世界のジャーナリストにプレゼントしたら、彼の SNS で世界に発信されました。



試合会場の世話をしてくれた現地のスタッフ



現地の日本チームのアシスタント



日本チームがお世話になった地元スタッフ



日本チームのバスの運転手さんへプレゼント



地元バザールでお土産を購入



新体操の子供たち



表彰式など式典系の地元大学生



地元のボクシングの子供たち



ボクシングの練習後のスナック

通貨(両替。レート)の話

ウズベキスタンの通貨はスムです。現地に行って、円から直接スムに両替できることも意外とありました。しかし一般的には円→ドルからスムという流れでしょう。

円から直接スムに両替できることから、ウズベキスタンという国が親日であることが感じられます。

さて、円をドルに換えるとき、今為替は約107円ですが、実際手数料がはいり、成田では、約109円でした。1万円が91\$、2万円が182\$、3万円が273\$という具合です。

今回現地で30\$をスムに両替した

ら、なんと39万7,000スムの札束がきました。

このレートから考えると、手数料などの細かいことはありますが、1スムあたりの\$や円との関係は次になります。

- ・ 1\$は 13,173スム です。
- ・ 1円は 123スム です。

-
- ・ 1スムは 約0,000075\$
 - ・ 1スムは 約0,0083円 という具合で中国や韓国と比にならない低いレートです。

今日ホテルで、札をベッドに並べたらいっぱいになり、大金持ちになった気分です。5000スム札が79枚 1000スムが2枚。

街の相場価格

- ① ミネラルウォーター (2000ml ペットボトル)
1本 2000スム → 約17円です。→ 0.15\$
- ② コーラやSprite
1本 3500スム → 約29円です。→ 0.26\$
- ③ エナジードリンク
1本 15000スム → 約124円です。→ 1.125\$